

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190200085		
法人名	NPO法人だいこんの花		
事業所名	NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花		
所在地	岐阜県関市西神野605の1		
自己評価作成日	2011年11月11日	評価結果市町村受理日	平成24年2月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/infomat/onPubli.c.do?JCD=2190200085&amp;SCD=730&amp;PCD=21□□□□">http://www.kai.gokouhyou.jp/kai.gosi.p/infomat/onPubli.c.do?JCD=2190200085&amp;SCD=730&amp;PCD=21□□□□</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成23年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>家庭的な雰囲気の中その人らしさを大切にし地域のなかで地域の方との交流を通し、自然が沢山感じられる中で健康的に明るくすごしてもらいたい</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>理念を全員が意識して、自然の中で、自宅と同じように、利用者が穏やかに生活できるよう日々の介護に当たっている。自宅で出来ない趣味や家事も職員や仲間と楽しくできている。歌ったり、体操したり、好きな所へのドライブを楽しんだり、自宅で過ごすようにその人らしい暮らしが継続できる手助けをしている。利用者の健康を維持しながら持てる力を活かし、一緒に実践している。全職員が仕事の一環として研修に参加する機会を設け、職員のレベルアップにも積極的に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り、月1回のミーティング時に確認しつつ日々の業務に取り組んでいる	法人の理念を全員が意識し、利用者がその人らしく生活できるように、毎朝の申し送りの時や月1回のミーティングで、一人ひとりの介護のあり方を全員で話し合っている。しかし小規模多機能型居宅介護のサービスを実践するための理念がない。	法人の理念を基に、小規模多機能型サービスにふさわしい独自の理念を作られることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事(夏祭り、敬老会、クリスマス会等)に、敷地内にある交流センター、農業センターの職員に参加やお手伝いをしてもらう地域のお祭りの利用者とともに参加	地域の行事には積極的に参加している。事業所の行事(クリスマス会、夏祭り等)には地域住民の参加を得ている。保育園との交流を行い、福祉の授業の一環として小・中学校の生徒を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	関市キャラバンメイト指導者として地域の理解を深める活動や啓蒙活動をしている(寸劇等により)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市からの指導、報告を家族と一緒に受け、家族からの意見を活かすべく努力をしている。	同じ棟のグループホームと合同で会議を開いている。途中から分かれて会議を行い、個々の意見交換や意向の把握をしている。議事録は家族全員に配布し、それに対する意見や要望も電話等で聞きながら、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に毎回の会議出席で意見交換や、話し合いにおいて、施設をより理解してもらおう説明を行っている	書類の提出時や会議等を捉えて事業所の実情を積極的に伝えている。市の要請で、認知症サポーター養成講座への協力や介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やミーティングの場で事例のたびに話し合い出来る限りの拘束を行わない方針である	ミーティング時に、管理者が身体拘束や虐待について話したり、職員が講習会で学んだことを報告し合ったりして理解に努めている。ベッドから夜間転落する利用者に対し、柵の取り付けを、書面を作成して家族に同意を求めた事例があった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修機会を多く取り入れることで全員の防止に対する観念を徹底している。又、入浴中の身体の変化や、会話からの気づきに気をつける		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特におこなっていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明をし、疑問点を聞き、解決しその後も疑問の生じた時は説明し理解、納得してもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、送迎時に家族の意見を聞き反映するよう努力している	訪問及び送迎時には必ず家族に声かけし、ささいなことでも聞きのがさないよう努力している。また、連絡帳からも意見や要望を集め、それらについてミーティングで話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、日々の申し送り時、その他の機会に意見を聞き反映するようにはしているもすべてが行えているわけではない	ミーティング時や、職員一人ひとりに接する際、話しやすい雰囲気作りに努め、職員から気軽に意見や要望を聞き、運営に反映させている。職員の急な休みの要望にも対応できるような体制を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与等入社時には、納得出来ていても後になって満足行っていないものもあると考えられる、会社も会社実績を見ながら前年よりもの上昇につとめていると思う		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の推進、外部からの講師を招いての研修(年3回)他個々にも研修の推進を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の推進、外部からの講師を招いての研修(年3回)他個々にも研修の推進を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	記録、連絡帳、毎日の申し送り時にそれぞれが聴いた不安材料を伝えて解消につとめる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期面接時、契約時に聴く要望や、前回サービス事業所からの情報とうで確認し。家族に説明している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当サービス内容の確認や、要望を一緒に考える事で他のサービス導入も進めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	小規模の範囲内で出来ることは、状況をみながら支えていけるように努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に重点を於いて、サービスで一方的に行ってしまうのでは無いように家族に相談しながら進めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	小規模の通いや訪問を通して出来る範囲では、おこなっている。	利用開始時の調査以外に、送迎時に家族、近所の住民、知り合い等との会話から、利用者の馴染みの人や場所の情報を集めて、昔住んでいた所や勤めていた会社の近くにドライブしている。また、年賀状の作成支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に関係を把握して良い関係になるような配慮は行っているも、良くない関係の者同士のすべてがおぎなえていないのではないかとも思う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他のグループホームなどに移動した人たちも面会に行くとか、その施設より情報をもらい、必要に応じて家族とも連絡をしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	聞き取り調査により検討に努めている	職員は利用者に寄り添い、歌が好き、絵を描きたい、字を書きたい等、家でできないことを聞き出し、これらが楽しみとなるよう、道具や材料を工夫し、希望に沿うよう努めている。また、遊びや食事のメニュー等を利用者に決めてもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回や、通い時の会話から本人の生活を把握をして、常にサービスを見直すプランももっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家族より送迎時、訪問時の会話や、見た状況から情報を集めて良い生活の支援をするべく努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時には、すべての職員より意見を聞き、話し合うなかでの計画になるように作成をしている	ミーティング時に、すべての職員から意見を聞き、利用者及び家族と相談して介護計画を作成している。利用表および介護日誌を基に、介護計画のモニタリングをしようとしているが、その様式を試行錯誤している。	介護計画の確認とモニタリングができる様式の改善を出来るだけ早く実現されたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は、すべて職員の出勤に併せて目を通し、気づきや情報を交換共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	管理者、職員と話し合いながら誰もがきずいた事、思うことを話し合いながらサービスを行っている		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すべてを把握しての支援はむつかしいが、わかりうる範囲での支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用以前からのかかりつけ医を継続して受診出来るよう支援している、事業所の都合で医院をきめたりはしない	かかりつけ医の受診は家族が実施しているが、家族の都合の悪い時や緊急時には、職員が受診の支援をしている。受診結果は記録に残し、職員間で共有し、その都度家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護に関する事は看護師の指示において行い介護職が気づいたことは、看護師に申し送り管理者を通して家族に伝える等適切な看護に協力している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の相談員、看護師から情報をもらう、必要な時は、医師連絡票等で情報をおくっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、終末期に向けては、段階をみながら話し合っているものの地域までは、共有できていない	事業所でのサービスの限界について契約時に話している。家族やかかりつけ医と話し合い、一般の浴槽では入浴介助ができなくなった段階で、機械浴のある施設を紹介している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署よりの救命訓練や、看護師、管理者と相談しながらマニュアル作成をして皆に周知するよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練により避難や、予防について指導を受け、日頃より備えることや、地域にも声かけして協力も求めている。	夜間想定避難訓練を実施している。マニュアルの見直しと、職員一人ひとりの役割の確認を今後の課題としている。また、地域住民の参加も得られていない。	運営推進会議等を利用して、災害時の地域住民の協力体制を構築されたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で人格尊重に対して気をつけるように保護できるようつとめている	食事の席次や居場所は、自尊心を損ねない配慮をしている。トイレ誘導、トイレや風呂の扉を閉める等、羞恥心への配慮もしている。記録類は職員の手元に置いて、他人の目に触れないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話から、希望を聞き取り少しずつでも実現出来るようにレクの時間を使うなどして実現に向けている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の思いにそうようかわからつかみそのように進めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院や理容院の介助をする、好みの買い物支援に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所が近いということもあるので準備の段階よりにおいや音で楽しみ、形態や好みものを取り入れることや嫌いなものを避けることで楽しんでもらっている	新鮮な旬の物を好みの煮物にし、匂い、色彩、食欲の増す盛り付け等に工夫している。職員は利用者と一緒にテーブルについて、献立の話し等で、にぎやかに楽しめる雰囲気作りをしている。その人の能力に合わせて、食事の準備や後片付けを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握することで対応することを行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には個々の対応をしている		

NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いることや、情報交換により支援している	排泄パターンを確認し、オムツに頼らずトイレでの排泄を促している。また、トイレの位置を分かりやすくしている。自然排便となるよう食材や水分補給に心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いることや、情報交換により支援している 便秘の人には、飲み物や食事での配慮をおこなっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけのタイミングをはかたり、予定日ではなくとも希望にそうようにしている	利用日には希望に合わせて毎日でも入浴してもらえるよう努めている。入浴の方法は、利用者や家族から希望を聞いて対応している。入浴剤を利用したり、菖蒲湯、ゆず湯のような季節に合った入浴を準備したりして、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個人個人の対応を心がけ、消灯時間をきめるなどしなく、心行くようにすごしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はかならず家族よりもらい、その上で状態には気をつけ変化ある時はそれにたいしての対応をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることや好みなこと、趣味がいかせるレクの取り込みをこころがけている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き出来るだけはそうようにしたいが、一度には出来ないため順番に施設として、できることからやっている	花壇の花を近くの農業センターに運びに行き、散歩や行きたい所に少人数に分かれて出掛けている。理美容院、通院介助も希望に合わせて支援している。	



NPO小規模多機能型居宅介護だいこんの花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと、許せる範囲での所持は、おこなってもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望は、かなえている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者から指摘を受けることはすぐに改善するようにしている	居間には、職員と利用者が一緒に作った大きな干支飾りで正月の準備をしている。廊下には利用者の作品や行事・外出時の写真を貼り出すなど、見て楽しんでもらえるようにしている。大きな窓から山や自然が見られ、採光、室温も適度で、居心地よく過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来る限りの居場所づくりはおこなっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	長期の泊まり、や複数回のとまりは、個人の持ち物も考えているも週に1回等の泊まりの場合はすべてできていない	短期利用なので、好みの物で居心地よくセットは出来ないが、毛布等の寝具や衣服、カバン、表札などで自室と判るように工夫している。慣れた居室で泊まれるようにも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫は出来る範囲でしているもすべての利用者に満点とはしていない		